

平成30年度通常総会を終えて

会長 溝淵三枝子

麦秋6月。昨冬は列島中を予想外の寒さが襲いましたが、その寒さを払拭するかのよう
に青葉若葉の美しい季節となりました。さて、当会の30年度通常総会は皆様ご承知の通
り5月13日に開催され、活動報告及び決算、活動計画及び予算をご審議いただき原案可
決をいただきました。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

当会は1987年(昭和62)から30年を経て、30年度は折り返し2年目の年となり
ます。新ためて考えますに、立ち上げて30年を迎えるということは喜ばしいことである
とともに大きな責任を負うことでもあります。そういう意味で折り返しに続く今年は役員
一同、緊張を感じずにはられません。各事業の担当者は中途失聴者・難聴者支援活動の
根源に資するよう事業においても前向きに一生懸命に取り組んでおります。

そのなかの現任研修という委託事業について。平成26年度から県が当会に委託して行
う現任要約筆記者対象の研修です。要約筆記実技の見直しや援助技術や制度・福祉などの
より新しい情報に接することができるようにとの配慮で始まったものです。講師陣は普段
ではなかなか聞けないような(特非)全国要約筆記問題研究会や(一社)全日本難聴者・中
途失聴者団体連合会からお招きしています。今年で5回目になりますが初回は大変多くの
参加がありました。しかし希少が薄れたのか年々参加者が少なくなっております。

ここで皆さん考えてください。制度で研修を受けられることは登録要約筆記者だからで
す。その研修を受けないことはその権利を放棄していることとなります。全回の参加は出
来なくとも、3回でも2回でも1回でも参加していただきたい。それが権利なのです。

要約筆記者は中途失聴者・難聴者の権利擁護の支援が目的です。

要約筆記者自身、自分たちの権利にも敏感であること。それこそが利用者の権利擁護に
繋がると思うのですが、いかがでしょうか。

やまもも会員

6月現在 62名

(内 賛助会員4名)

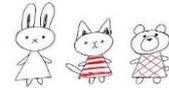
<要約筆記 高知・やまもも のできごと>

平成16年 (2004)	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO 法人設立 ・ 派遣数 71 件 (含 養成講座講師派遣) ・ かたつむり国語教室支援 ・ 県立塩見記念青少年プラザに事務所移転 ・ 会長 山崎千加 就任
-----------------	--



平成 30 年度

講座・派遣・企画・利用者の各担当からの声です！



学びと出会いの場

小笠原文香

5月20日(日)から養成講座が開講しました。講座担当になって数年。毎年、応募者の多寡に一喜一憂している。今年はおかけさまでたくさんの応募があり、ホッとしているところです。ご存知のように講座は要約筆記者になるための基礎を学ぶ場です。会員の皆さんには情報保障やスタッフとして参加していただきたいのはもちろんですが、しばらく活動から遠ざかっている方にも聴講してほしいと思っています。これから要約筆記者を目指す者と現任者がひとつになれる場。より良い学びと出会いが提供できるようサポートできたらと思います。

派遣担当としての思い

川井美恵

派遣担当は、時に達成感と充実感で満たされる業務である。それには、皆さまの協力が必要で1人では味わえない。派遣が終了したときには、達成感と同時に「ホッ」と安堵する。それは、やまももは支援者として依頼者の要請に応えたい、要望に沿いたいとの願いから派遣依頼は断らない方針が根幹にあるからだ。けれど近年、平日の派遣依頼が増加傾向にある。皆さんの記憶にも新しいと思うが、この2月 平日の派遣依頼が多かった。そのうえ、認定試験とも重なり会員の皆さまにはご苦勞をおかけした。私は30年度もこういうことがあるのではと思っている。

どうぞ皆さま、頭や胸中に「派遣」の2文字をよろしくお願いします。

企画担当が存在する意味

門田民世

発足して7年目。助成金申請で活動機材の調達や、遠隔情報保障試験運用など、その時々に応じて活動してきた。企画通信で活動状況を発信しながら、一定の成果を出せた気もする。だが、それだけが役割だろうか。どの組織でも目標を掲げ事業は展開されるべきもの、展望を持たずして成り立つものはないという。今年度のメインテーマは「要約筆記デモンストレーション」。一般市民へ要約筆記の啓蒙を通し、私たち自身が活動の原点に立ち返りながら、新しい出会いや気づき、さらに会員間のチーム力を醸成していきたい。そこにこそ、答えがあると思っている。

課題は人材

山本善子

生気を感じる青葉の季節が来ました。利用者担当の第一の報告は「高知県中途失聴者・難聴者の会」の目指した高知県登録を成し「高知県社会福祉活動団体」と認められたことです。まずは安堵の報告です。しかし、課題は会員の増員です。自分の生活に懸命な努力をされている難聴者は、参加すること自体が大変です。仕事を持つての参加はもっと難しいと思われませんが、人材不足はどこも同じです。私たち要約筆記高知・やまももに利用者担当が設けられ事務局を担当してくれれば継続できるかなというのが実情。この役は要約筆記者ならではの、健聴者ならではの支援ではないかと考えられ期待する次第です。



人・ヒト・ひと

横顔 18

藤崎文子 さん

★お洒落でインテリ。上品さところと決めたら梶子でも動かない頑固さもお持ちです。木曜会ではその博識を披露するたび、同席者を唸らせています。ご本人不在の折には、不在を惜しむ声、大。ご本人はご存じないと思いますが。ホント、です。



■入会年は？／登録証の日付は平成24年7月。

大変なことを始めてしまった、困ったことになった・・・と。

■趣味は？／家の広告チラシの間取り図を見ること。

■嫌いなことは？／土いじり。

小さな野の花には目をとめるのに、虫扁に弱くて。

■習慣／体重計に乗る。

若いころから走るより転んだ方が・・・とからかわれた。

■理想のタイプ／中庸を重んじ尚かつ我が道を行く人。

■いけないと思いつつやってしまうことは？

／・近くのスーパーについで車で行く。今日は重い物があるからと胸に言い訳をくるんで。

・治りかけのかさぶたを少しずつむいて行って、とうとう血がにじむ。

■自分の性格は？／どちらかといえば、動より静。一日中、家の中に居ても退屈しないタイプ。

★次回も
お楽しみに

読書

『君たちはどう生きるか』

吉野源三郎 著 マガジンハウス

松村滋子

高校生の孫に勧められ手にした。中学2年生で叔父さんのつけたあだ名がコペル君(地動説を説いたコペルニクスからつけた)。この少年が日々体験する出来事を捉え叔父さんのNOTEという形をとり著者のものの見方、考え方が述べられている。編集者であり哲学者でもある彼。「どう生きるか」今更と思っていた自分の考えや見方をみつめ直す機会が与えられた気がする。

掲示板

敬称略



◆ やまももの拠点

「小津事務所」開所 !!

(県立塩見記念青少年プラザ内)

耐震化のために休館していた県立塩見記念青少年プラザが6月17日(日)オープンします。当会もあちこちに保管をお願いしていた荷物を6月9日に移転、開所の運びとなります。

使用については次回、お知らせします。

◆◆平成30年度要約筆記者養成講座開講

5月20日(日)～11月18日(日)全29回

高知市障害者福祉センター

9:30～12:30(全日3回あり)

“現任要約筆記者の聴講歓迎”(講座担当)



Amazonでのお買い物は ⇒ やまもものホームページ Amazon アソシエイトから。※購入金額の一部が広告宣伝費として Amazon からやまもものに支払われ、活動費となります。※購入金額に宣伝費が追加されることはありません。

30年6月 活動予定

日・曜	会 合 名	時 間	場 所
2日(土)	理事例会	10:00~12:00	障害者福祉センター
3日(日)	要約筆記者養成講座 第3回・第4回	9:30~16:30	障害者福祉センター
9日(土)	土曜会	10:00~12:00	障害者福祉センター
10日(日)	要約筆記者養成講座 第5回	9:30~12:30	障害者福祉センター
10日(日)	PC勉強会	13:30~15:30	青少年プラザ
16日(土)	高知県中途失聴者・難聴者の会	13:00~15:30	障害者福祉センター
17日(日)	要約筆記者養成講座 第6回	9:30~12:30	障害者福祉センター
17日(日)	高知こどもファンド公開審査会	13:30~17:00	高知市保健福祉センター
21日(木)	木曜会	10:00~12:00	障害者福祉センター
23日(土)	要約筆記者現任研修 第1回	9:30~12:30	四万十町役場
24日(日)	要約筆記者養成講座 第7回	9:30~12:30	障害者福祉センター
28日(木)	木曜会	10:00~12:00	障害者福祉センター

30年5月 活動追加

日・曜	会 合 名	時 間	場 所
10日(木)	市町村障害保健福祉担当者会	13:00~13:30	県庁 正庁ホール
11日(金)	総会・福祉大会	10:00~12:00	佐川町健康福祉センター かわせみ
16日(水)	ノートテイク		
29日(火)	ノートテイク		

<6月の行事> ・1日 衣替え ・6日 稽古始 ・11日頃 入梅 ・21日頃 夏至
 ・30日 夏越の祓い ※第3日曜 父の日



《まっぴや》

■家に来ている大工さんがミツバチの箱を二セット、柿の木の下にセットした。たつぷりの蜂蜜と蜜蝋を塗り入口には満開の金陵辺のラン。すると早速翌日には大きな塊の蜂が出入りを始めた。近所の人も集まり喜んだ。もう一人男の人が箱を並べ三つになった。ところが翌日には一匹もいなくなった。聞いてみると昨日は様子を見にただけなのに人間が騒ぎ居心地悪く他へ行つたとのこと。中に塗った蜂蜜と蜜蝋はすっかり盗まれていた。今、柿の木の下には六箱が鎮座している。(美) ■「牡蛎は一生の内に男になつたり女になつたりする。女の時食べたら身体に卵を産まれるき食べられん」と知人が言う。半信半疑で調べた。なるほど、牡蛎は繁殖期に雌雄に分かれて生殖する。その期間は精巢が肥大し食用にならない。繁殖期が終わると中性になる。食べられない期間は英語の月名でrがつかない月とある。五月〜八月だがrに意味があるだろうか。(善) ■今年の花々は実に美しく芍薬も例外ではない。広島在住の頃この時期宅配便で芍薬が届いた。父が丹精し開花寸前の蕾を母が和紙で丁寧に包んであった。満水のバケツに一晩置くと翌朝真っ白で花卉の先が仄かにピンクの大輪がバケツを覆う。あの息をのんだ一瞬の光景と優しい香りを思い出す度、まだ私は若く両親が存命であった日々を惜しむ。(滋) ■整形のリハビリから。リハ師の技量の違いはまづ体格から来る力の差だと思っていた。ところが、さそが力を制することに気がついた。物事全般に通じることもあらずと考えている。柔よく剛を制す。(三)